

児童の情報活用能力育成に取り組む若手教員への支援 —「RISOよみとき新聞ワークシート」を用いた指導事例や示範授業の提供を通して—

Supporting young teachers who help children develop research and information literacy
— Through providing teaching plans and demonstrations using “RISO worksheets” —

細川 都司恵 (教職支援センター特任准教授)
Toshie HOSOKAWA (Teacher Education Center, Associate Professor)

〈要旨〉

理想科学工業(株)は、新学習指導要領に沿った言語能力や情報活用能力を伸ばすために朝日小学生新聞とのコラボで「RISOよみとき新聞ワークシート」を週1回無料配信している。このワークシートを使って、情報活用能力育成を目指した授業を若手教員に実践してもらうための指導事例を毎回作成した。さらに、若手教員に向けて指導事例に合わせた示範授業を行うことで、情報活用能力育成のための授業の押さえどころを若手教員と確認でき、若手教員は単独でも継続的な実践ができる見通しや視点を持つことができた。

〈キーワード〉

情報活用能力, 若手教員育成, 示範授業, 新聞ワークシート

1 はじめに

新学習指導要領における小・中・高等学校共通のポイントは、情報活用能力を、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけられたことである。さらに「各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。」⁽¹⁾とされた。

しかし、現在、授業におけるICT機器の活用は進んできているものの、これまで各教科等の目標や内容と、情報活用能力の関連を意識して授業を行うことに、多くの教員は目を向けてこなかったというのが実態であろう。

そこで、学校現場で年々増えている20代から30代前半の若手教員へ、自らが小学校教員時代に授業実践で学んできたことや新たに文献等から学び直したことをもとに、児童の「情報活用能力」を育成する指導技術を伝えたいと考えた。今回、報告するのは、理想科学工業(株)が朝日小学生新聞「ニュースあれこれ」コーナーから4つの記事をピックアップし、週1回会員登録者に配信される「RISOよみとき新聞ワークシート」⁽²⁾の指導事例を作り、実際に示範授業を見せるまでの取組経過である。

実践の対象となった教員は20代~30代の5年担任男性教

員2名と女性教員1名である。この関わりを通して、3名の若手教員にどんな知見が生まれたのかを聞き取りアンケートを通して検証する。



図1 RISOよみとき新聞ワークシート(罫線のものもあり)

また、以前から情報活用能力育成を意識して授業に取り組んでいる「RISO新聞プロジェクト員」30代前半U教諭の新聞活用の様子とも比較しながら、情報活用能力育成に向けてこれから取り組んでいくことになる若手教員に、どんな支援を行なったらよいかを明らかにしたい。

2 研究の内容

2-1 研究の目的

- ・情報活用能力とは何かを明確にし、若手教員への指導助言に生かす。
- ・児童の情報活用能力育成のために「RISOよみとき新聞ワークシート」を活用して、どのように情報活用能力を指導したらよいか分かる具体的な指導事例を作る。
- ・若手教員に指導事例をもとに授業してもらい、課題となった点について指導事例の改善を図る。
- ・情報活用能力の指導に慣れていない若手教員が、授業の組み立て方や指導の留意点に気づき、指導効果を上げたり、教科の指導に取り入れたりすることにつながるような示範授業を工夫する。

2-2 研究の方法

- ① 文科省や関係機関、教育関係企業のHP、文献・資料等から情報活用能力についての理解を深め、若手教員に指導・助言するポイントを探る
- ② 「RISOよみとき新聞ワークシート」の4つの記事の中から、情報活用能力育成に資する記事の一つを選び、学習目標・書く条件・学習の流れ・モデル文例を入れた具体的な指導事例を作成する。対象児童は高学年とし、中学年の学習内容も含めていく。
- ③ 指導事例をもとに、若手教員のクラスで示範授業をし、情報活用能力を指導するための留意点を指導・助言する。
- ④ 指導事例や示範授業の効果について、5年担任の3名の若手教員に聞き取りやアンケートをし、成果と課題を検証する。

2-3 実践の形態

学校現場（石川県）では、全国学力・学習状況調査の結果を受けて、条件に合わせて自分の考えをまとめる「条件作文」の取組を行っている。多くは15分～20分程度の帯時間を使って週1回、「春夏秋冬のうちどの季節が好きですか」というような手作りのワークシートや、市販の読解力ワークシートなどを用いて、自分の考えとその理由を書いたり、「一つ目は…二つ目は…」等接続語を用いて理由をまとめさせたりしている。そのため「RISOよみとき新聞

ワークシート」も帯時間を活用することとする。

ただし、新聞を取っていない家庭が増え、児童は新聞に目を通すことが減っている上、情報の読み取りや考えをまとめることに初めは時間がかかると考え、45分の授業の中で取り立て指導を行い、少しずつ20分余で自分の考えをまとめられるように指導の工夫をしていく。情報活用能力は、一朝一夕に身につく力ではないので今回の実践を踏まえて年間を通したカリキュラムを考える参考にする。

3 情報活用能力のとらえ

3-1 新学習指導要領 総則より

新学習指導要領 総則によると、「情報活用能力は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である。」⁽³⁾と位置付け、さらに、「情報活用能力をより具体的に捉えれば、学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力であり、さらに、このような学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含むものである。」⁽⁴⁾と記している。

内田洋行教育総合研究所のHPでは、これを受けて、「予測困難なこれからの社会において、“子供たち自身で問題を解決したり、そもそもどのような問題があるのか発見したり、それらに対する自分の考えを持ったりする”ということを目的とした“情報そのものやICTをはじめとする情報技術を活用する力”」とまとめられている。

このことから情報活用能力は、必要な情報を取り出し理解した上で、熟考・評価し論述するといった「PISA型読解力」と共通していると言える。従って全国学力・学習状況調査での課題は読解力＝情報活用能力に関することであり、平成28年度経年変化分析調査からも課題は解決していないと見ることができる。⁽⁵⁾

児童がICT機器を活用するための環境整備が遅れているために、情報技術を活用する力をつけることができない現状を抜きにしても、新聞、書籍、テレビ、インターネット等の情報や、会話、インタビューやアンケート等の見聞きした情報を整理・比較したり、分かりやすくまとめ表現したりすることを確実に指導しなければ、情報活用能力の育成は難しくなると言えるだろう。若手教員にとっては、いきなり教科の中で指導というより、特設した指導時間の中で経験を積み、帯時間でも効果的に指導できるよう

にし、少しずつ教科の指導にも生かしていくのが得策と考えた。

また、情報活用能力を育成するためには、児童が解決したいと思えるような課題意識を持って主体的に取り組み、対話的な学びの中で自分の考えを深められるようにすることが指導の留意点として挙げられるだろう。

3-2 情報活用能力の体系表例

文科省は、次世代の教育情報化推進事業（情報教育の推進等に関する調査研究）成果報告書「情報活用能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントの在り方と授業デザイン」の中で、情報活用能力の体系表例を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力・人間性等」の「三つの柱」ごとに整理することとし、それぞれに含まれる要素を【IE-Schoolにおける実践研究を踏まえた情報活用能力の要素の例示】として示した。

		分類
A. 知識及び技能	1	①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解
	2	①情報収集、整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の方法の理解
	3	①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・セキュリティの理解
B. 思考力、判断力、表現力等	1	※事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力 ①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力 等
	2	①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、改善しようとする態度
C. 学びに向かう力・人間性等	1	①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度
	2	①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度

図2 情報活用能力の要素の例示⁽⁶⁾

特にB 思考力、判断力、表現力等の「※事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力」が、全国学力・学習状況調査でも継続的な課題となっているので、今回の実践では指導事例も、主にその力を意識した内容に仕立てることにした。

4 「RISOよみとき新聞ワークシート」

4-1 指導事例作成の趣旨

小学校新学習指導要領 解説 国語編では、中央教育審議会答申において、小学校では、「文における主語を捉えることや文の構成を理解したり表現の工夫を捉えたりすること、目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすることなどに課題があることが明らかになっている。」⁽⁷⁾と示されていることに言及している。このことは、情報活用能力は、言語能力と密接な関係を持続する必要があることを示している。従って、知識・技能

のうち、「語彙、文や文章、言葉遣い、表現の技法」についての内容を指導事例に加味しながら「情報の扱い方に関する事項」にある「情報と情報の関係」や「情報の整理」について盛り込んだ指導事例を作成する必要があることが分かった。

平成31年度全国学力・学習状況調査の結果（文部科学省）の中でも、情報活用能力に関して見ると、国語科と算数科でそれぞれ次の項目が目立つ。⁽⁸⁾

国語科

・「相手に分かりやすく情報を伝えるための記述の工夫を捉えたり、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたりすることに課題がある」
算数科

・「二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を記述することに課題がある。」

新聞記事は、社会・政治・経済・環境・スポーツ等多方面のジャンルがあり、写真や図・グラフ等の情報と関係付けて記述されていることも多いので、教科横断的な視点で児童に考えさせるには適した教材である。その上「RISOよみとき新聞ワークシート」は1記事約130字～230字程度の文字数でコンパクトにまとめられており、漢字には誰もが読めるよう全てルビがふってある。

本来は、4つの記事から1記事を児童が自由に選び、感想を書くワークシートだが、2019年1月から書くことの力の向上として週1回、1記事を選定し指導事例を作成し「RISO新聞プロジェクト員」に配信してきた。今回は喫緊の課題の改善につなぎ、新聞記事の利点を生かした情報活用能力を育成するための意図的な指導になることをより重要視して指導事例を作成することにした。

5 指導事例の作成

5-1 作成の手順

図3 情報モラルに関する指導事例

主語・述語の関係を読み間違えると、大人でさえも情報を間違って捉えることがあった。そこで、作成前にまず四つ

の記事の主語・述語を確認し、内容をつかんだ後、下記の資料と4記事の記述を照らし合わせて、児童の情報活用能力育成につながる課題(テーマ)が設定できる1記事を選んだ。

- ① 情報活用能力の要素の例示 ステップ1・2⁽⁶⁾
 - ② 「知識・技能」の内容 特に「情報に関する事項」⁽⁹⁾
 - ③ 毎年の全国学力・学習状況調査 報告書(概要)⁽¹⁰⁾
- 書く条件は、自分の考えとその理由を書くことを基本にしながら、意見文や報告文、解説文、紹介文等、教科書で扱っている文体を書く条件に盛り込む。指導例としてモデル文例を示すことで若手教員も学習のゴールがイメージできると考えた。

学習活動は、流れが分かるよう番号を入れた。めあてを示した後、読んで5W1Hと言葉の意味を確認する流れは毎回同様の流れにした。その後記事から注目してほしい点を投げかけることで課題を持たせ、意見交流から書く活動につなげる流れは、記事の内容や考えさせたい課題に合わせて提示された文型を用いて書く形にした。

5-2 補助資料の添付

1記事は多くとも230字程度なので、情報不足で課題に対して判断できない場合が少なくない。新しいワークシートで学習するたびに、若手教員が補助資料を探しているようでは手間と時間がかかり、取組が継続しない。またグラフや図表等と記事の情報とを関連づけて考えることは今後も大事な指導事項であるので、指導事例を作成する際に補助資料を添付し、掲示資料として印刷したり、テレビで視聴したりできるようにPDF化して配信した。

5-3 試行してみたの変更点

10月から試行実践を始めたが、当該若手教員らにとっては、情報活用能力育成への理解がこれからの状況であったこともあり、学習の流れだけでは具体的な自分の授業イメージに落とし込めないことや、条件作文のドリルのように扱ってしまっても、児童の主体的な学びをつくれぬ等の悩みが聞かれた。補助資料もどんなタイミングで扱うかについて難しさを感じているようだった。

指導事例があることで、課題の持たせ方がだんだんと自分でもできるようになり、オリジナルの指導例をもとにした授業を作ることができた。自分もいくつかの指導事例をそのまま運用したり、アレンジして使ったりすることで少しずつそういった呼吸がわかってきたような気がした。

図4 U教諭へのアンケートより

しかし、前述したU教諭は、当初の指導事例だけで、授業をイメージし、話すこと・聞くことの実践にもつなげていた。

この違いは、情報活用能力についての理解やそれを授業に乗せていく力量が、当該若手教員にとってまだ十分でないことが理由として考えられた。

そこで学習の流れだけでなく、より分かりやすく授業イメージが持てる「指導案」の形や、それをもとにした示範授業を見せることで、この違いが少しずつ埋まっていくのではないかと考えた。

5-4 示範授業

赤字は学習の流れ、青字は留意点

①記事のめあてを伝える
②記事の中から「新国立競技場、ほぼ完成」の部分を抜き取る
③自分の考えを自由に書く
④自分の考えを共有し、自分だけの考えをまとめる
⑤見出しを共有し、自分だけの考えをまとめる
⑥書き手である記者は、なぜ一部の写真を使ったのか、その思いを記事の言葉や文を用いてまとめる

留意点
・記事は先に読んでおくように指示する
・読者のワークシートを使うように指示する
・学習のゴールを提示する
・記事を補足する
・線を引かせて確認する
・5W1H図表例で確認する
・記事を補足する

図5-1 11月2週目の指導事例

「新国立競技場ほぼ完成」のニュース写真

毎日新聞 「工期通り11月30日に完成」(10/31)
https://mainichi.jp/articles/20191030/k00/00m/050/338000c

日本経済新聞 トラックをり、完成間近 (9/26)
https://www.nikkei.com/article/DGXMZ050219970W9A920C1000000?

スポーツニッポン新聞社 嵐、ドリカム 新国立競技場のオープニングイベント出演決定(11/11)
https://www.sponichi.co.jp/entertainment/news/2019/11/11/kll/20191111s00041000213000c.html

中日新聞 新国立競技場 11月完成 ◆屋根に天電材(7/3)
https://www.chunichi.co.jp/article/shizuoka/tokai-news/CK2019070302000301.html

図5-2 11月2週目の補助資料

時	教師の働きかけと児童の反応	留意点	時	教師の働きかけと児童の反応	留意点
5分	1. 学習のめあてを伝える ○素直入りの記事をよく見るよ。記者は考えて写真を選んでいるはず。写真からも記者の意を伝えられる記事を選んで2枚強しめね。 (記者がこの写真を選んだわけを解説する)	・記事は先に読んでおくように指示する ・読者のワークシートを使うように指示する ・学習のゴールを提示する	5分	4. 記事の写真に、何が写っているかを共有し、課題を持つ ・赤いトラックに線が引かれている ・写真がたくさんある ・入場券が写っている ・自分だったら全員の写真を使う ○他のニュースでは違う写真を選んでいるね。記者がこの写真を選んだのは何かわけがあるのかな。	・写真が写っているものを確認する ・「新国立競技場ほぼ完成」の見出しに合わせて、自分だったら全員の写真を自分の2枚か決めさせる。 ・理由を何人かに説明させる
5分	3. 5W1Hを確認する(一部)○いつ(11月5日)記事 ・何が「新国立競技場の工事か」 ・どうした...11月未の完成前にはほぼ終わった ○早く完成したんだ。実は取りかきが遅くて完成が心配されていたんだけど、工事の人も頑張ったね。	・線を引かせて確認する ・5W1H図表例で確認する	5分 10分 課外	5. 文型を示し、自分の考えをまとめさせる ○この記事の写真をみてください。何が写っています。...も見えます。 ○記者は、「.....」と書いています。 ○(記者の思いを聞く)。 ●個別指導の例 ・読者を読み取る ・記事の文章にある言葉を使う ・一文を短く書く ・「」で文や言葉を引用する ●評価 ・文型を使っている ・図表となる文を用いている ・3段落の解読が解読に基づいている	・3段落・全体で書くように誘う ・記事の文から記者がこの写真を選んだ理由が分かっていると考える文や言葉を「」で引用させる ・④図表目に記者の思いを解説する ・マラソン等の場面が馴染みになったことだけでなく、「イン会場」のイメージで選んだこともよしとする ・約5分ずつだけかけるかを評価してもよい。

図5-3 11月2週目の指導案

示範授業は、途中から示範授業の形にした学級もあったが3名のクラスで1回ずつ行なった。用いたのは10月5週目と11月2週目の記事である。初対面で児童との関わりを

大事につくりたいため45分の授業として行なった。

授業者として意識したのは、

- (1) 児童の興味を引きつけるような発問や何のために学ぶかの意味づけとゴール設定をし、学ぶ姿勢を褒めて意欲を喚起する。
- (2) 他社の記事の写真との違いを明らかにすることで、「なんでだろう?」という疑問を強く持たせる。
- (3) 最後に書く条件や文型を示して書かせるが、文章を書くのが苦手と感じる児童に対しては、モデル文を見てもよいことにし、書ける児童には、友達と話し合ったことをもとに、自分の考えをまとめさせる。

5-5 示範授業の効果

示範授業の効果について、後日、当該若手教員3名からアンケートをとった。

Q3. 細川の示範授業を観て一番参考になったことは何ですか。その理由もあれば書いてください。

表1 参考になった事柄と理由

若手教諭	回答
A 男性 10月5週 「転売の記事」	・「書く」活動にいたるまでのプロセスが明快に見えた。これをどんどん慣れていく中で、教師の出場を減らしていけばいいのだと見通しがもてた。
B 男性 10月5週 「転売の記事」途中から示範授業 11月2週 「新国立競技場ほぼ完成の記事」 参観・指導助言	・「情報を取り出したり、解釈したりする視点」具体的なイメージがわかった。自分のこれまでの取り組み方と照らし合わせてその違いを実感できた。 ・2回目の方がより実感をもてた。なぜなら、自分なりに指導事例のゴールに到達するために補足資料を用意したり、授業計画をアレンジしたりしたから。 ・細川先生の講評から情報過多であることや本来の情報の取り出し方とは異なるという誤りを実感できた。
C 女性 11月2週 「新国立競技場ほぼ完成の記事」	・まだまだ学級経営の途中なので、児童への声かけが参考になった。 ・児童や学級としてマイナスだなと感じるところを注意ではなく、励ましの声で伝えていた。 ・テレビを使用する際の資料提示とそれに関連させながらの発問。

Q4. そのほかに、細川の示範授業について参考になったことを次の中から3つ選んで、参考になった内容をお書きください。

表2 選択肢

①新聞ワークシートの使い方	⑥示範授業での情報活用能力の捉え
②児童とのかかわりのつくり方	⑦時間配分・授業の進め方
③指示・発問	⑧参考資料の見せ方
④児童の意見の引き出し方	⑨事後のあなたに対する助言・アドバイス
⑤目線・表情	⑩その他

表3 参考になった他の事柄（選択）

若手教諭	回答
A	③指示・発問 必要感と課題意識の持たせ方 ④児童の意見の引き出し方 児童が書きやすくなるための材料づくり ⑦時間配分・授業の進め方 見通しがもてた
B	②児童との関わりの作り方 学びの集団に変えていく様は衝撃的 自分は井の中の蛙だった ③指示・発問 無駄がなく、的確 ⑤目線・表情 笑顔と声の抑揚
C	⑤目線・表情 つい話し合いたくなるような発問 ⑧参考資料の見せ方 丁度資料が見たいと思う場面での資料提示 ⑨事後のあなたに対する助言・アドバイス 自分では見えていなかった児童の良さ

Q5. 細川の示範授業を観た後、児童の言語能力（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと等）や情報活用能力を育てるために、自身の授業の中で意識しているのはどんなことですか。

選択肢

- ①新聞ワークシートを使った指導をするとき
- ②教科での指導のとき
- ③学校生活全般で

表4 示範授業後の意識の変容（A・B・Cは教諭名）

①	A 書くための要素や、課題意識をもたせる B 本当に必要な情報の叙述を根拠にする 友達の意見に対して思いを持って聞く
②	A 叙述から分かる事実と叙述から自分が読み取ったことの差異を確認 本当か?と読み返す B 友達の意見に対して思いを持って聴く 情報量の多さに惑わされずに必要な情報を的確に捉える

③	A 承認の言葉を多く使う B「聴く」こと 根拠を持って「話す」こと
①②③	C どの場面でも認める声かけを意識

6 成果と課題

6-1 成果についての考察

若手教員3名は新聞ワークシートの指導事例と示範授業については、それぞれ受け止め方は違っていた。特に女性若手教員Cは、学級経営に高い関心があり、児童の学びに向かう力を引き出す示範授業者の振る舞いやICT活用に意識が向いていた。

情報活用能力の育成の視点は弱かったものの児童の意欲を高めながら授業を行う技術を見せることが、若手教員の日々の実践のヒントになったと思われる。

男性若手教員AとBについては学びの共通項が多く、示範授業で具体的な授業イメージが持て、児童の意見の引き出し方や指示・発問など、示範授業者が意図したことを汲み取っていた。教科の指導の中でも「情報を吟味して捉える」ことを生かそうとしていることが分かった。

若手教員Aは、指導事例だけでは、「どこまでをねらうべき教材なのか（本人記述）」わからなかったのが、示範授業を通して学習のプロセスが見えてきたと述べている。しかし、新聞ワークシートの指導事例は、情報を取り出したり、解釈したりする視点を学ぶことができるよさは実感しているものの、まだ「児童の能動的な活動を引き出す技術の習得までには至っていない（本人記述）」としている。

若手教員Bは、「情報を取り出す」とか「解釈する」と

いような視点はこれまで持っていなかった。（本人記述）「初めは指導事例をなぞって授業を行っていたが、指導のあり方が実践者として理解していなかった（本人記述）」と述べている。しかし示範授業後は、児童を学習に引き込む関わりや資料提示など以前になかった授業の工夫が見られ「今求められる学力と学級づくり授業づくり（本人記述）」について意欲を持たれたようである。

3名とも今まで意識することの少なかった「情報活用能力の育成」だったが、示範授業を観て個人差はあるものの授業イメージを持てたと述べていることは共通していた。それぞれの学校で先行的に情報教育を学んでいる教員や授業力のある熟練教員がメンターとなって教科の枠にとらわれず、この新聞ワークシートや指導事例を活用して示範授業を交えた実践的交流が始まれば、新学習指導要領が目指す授業の具現化がより効果的に図られると考える。その取組は児童の情報活用能力の育成に確実につながるだろう。

6-2 課題について

今回は3ヶ月ほどの実践であり、20分の帯時間にまとめられなかったことや、他にもなかなか時間が取れず毎週の実践にすることはできなかったことは改善点である。20分のコンパクトな実践になるよう指導の焦点化をする。

また今回、⑥示範授業での情報活用能力の捉えについては、3名とも選択しなかった。次年度は1年のスパンで指導事例や示範授業を提供しながら、情報活用能力のとらえを明確にし、児童にどの程度の情報活用能力の育成ができているのか、その実態と変容を評価することも年間計画に入れ、実践を進めたい。

注

- (1) 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説P48
- (2) 新学習指導要領に対応した教材「よみとき新聞ワークシート」の無料配信サービス
- (3) 小学校新学習指導要領（平成29年告示）総則P50
- (4) 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説P50～51
- (5) 平成28年度全国学力・学習状況調査「経年変化分析調査」の実施報告（概要）
- (6) 次世代の教育情報化推進事業（情報教育の推進等に関する調査研究）成果報告書情報活用能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントの在り方と授業デザイン-平成29年度 情報教育推進校（IE-School）の取組より-P14～15【情報活用能力の体系表例（IE-Schoolにおける指導計画を基にステップ別に整理したもの）】
- (7) 小学校新学習指導要領 解説 国語編 P6国語科の改訂の趣旨及び要点
- (8) 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果（概要）

(9) 小学校新学習指導要領 解説 国語編 知識及び技能の内容P17～24

(10) 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」これまでの調査

参考文献

- ・ 小学校 学習指導要領 総則 及び解説 国語編 算数編
- ・ 次世代の教育情報化推進事業（情報教育の推進等に関する調査研究）成果報告書 情報活用能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントの在り方と授業デザイン
- ・ 平成28年度全国学力・学習状況調査「経年変化分析調査」の実施報告（概要）
- ・ 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」（H19～31）年度調査 報告書 調査結果資料
- ・ 国立教育政策研究所 全国学力・学習状況調査 授業アイデア例
- ・ PISA 調査2018 2018年調査国際結果の要約、問題例、ポイント